

理科 1		東京書籍（2東書）
特に優れている点	1 大阪市 施策	○【言語】「かく・はなす」「観察」「実験」「深める」の項目でそれぞれについて児童が興味関心を広げられる。 ○【系統】児童の興味を広げ、6年間を見通し系統的に理解が深められるように、巻末に「理科の調べ方を身につけよう」を設けている。 ○【基礎】問題→予想→観察・実験→まとめの授業の流れがわかりやすい。
	2 その他	○あらゆる場面で「かえるはかせ」や「きょうりゅうはかせ」といった各学年に応じたキャラクターを登場させ、児童自らが考えられるような問題提起やヒントとなる言葉を話しかけている。 ○観察・実験の方法や操作が主体的な活動になるように、「用意するもの」コーナーを設け、チェックできるようになっている。 ○観察・実験では、安全のために特に注意を要することを「きけん」と書かれた赤字で示すことで事故防止、安全への配慮がなされている。
	3 全国 調査	○観察・実験器具の扱い方を巻末の「理科の調べ方を身につけよう」で丁寧に示し、器具の操作方法について理解が深まる。 ○写真や絵が使い分けられており、乾電池のつなぎ方と働きが分かりやすい。（3年） ○記録温度計の結果が大きく見やすく配置されている。
	4 外的 要素	○見やすさと読みやすさを配慮したAB判サイズで、製本が丈夫である。 ○とび出る人体模型が工夫されている（6年） ○変わり続ける大地では、火山の噴火前後の写真があり変化の様子がよくわかる。（6年P122～P123）
	5 構成 配列	○自然現象（天候・植物）について、早い時期にしているのがよい。（3年, 4年） ○目次が裏表紙にもついており見やすい。
	6 資料	○写真家の今森光彦さんや宇宙飛行士の毛利衛さんといった有名な人物から児童に向けたメッセージなどを扱うことで、学習意欲を喚起し、将来の夢や目標を育むよう工夫されている。（6年）
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市 施策	○【基礎】問題解決の流れのフローチャートを全単元に用いたことで、多少強引な部分や不都合が生じている部分がある。観察・実験枠においては、主に手順のみが記載されており、児童自身が観察・実験の結果を整理したり説明したりする場面設定がない。 ○【言語】「結果」のマークがなく「まとめ」としている箇所がある。そのため「結果を整理して」論理的思考能力を育成することができない場面がある。 ○【防災】防災について、過去の災害や記録についての資料はあるが、児童ができる災害への備え、身を守るための手立てに関する内容や、防災・減災の意識を高めるような工夫が少ない。「特別警報」や「津波のハザードマップ」について紹介されていない。 ○【系統】児童の興味関心を広げ理科の有用性を実感でき活用を促すような題材が少なく、探究的な活動、発展的な内容が各社の中で最も少ない。 ○【言語】単元末の学習内容の確認場面などにおいて、穴埋め的な設問が多く、科学的な言葉を使用して説明することで論理的思考能力を育成するには構成されていない。（3年, 4年） ○【自主学习】巻末のまとめに図や写真イラスト等が少なく自主学習に用いにくい。
	2 その他	○十分に検討されずに提示される「問題」の文がある。また、「問題」と「まとめ」が正対していない箇所がある。（3年P91～P92, 5年P27～P28） ○「さあ、理科の世界に飛び出そう」（第4～6学年）の8つのステップさえ踏めば、問題解決学習ができたと思われかねない構成になっている。 ○観察・実験枠では、主に観察・実験の手順のみが記載されており、「結果」の記録の観点や「考察」の観点が示されていないため、主体的な学習活動にするための手立てが十分でない。 ○子どもが軍手をしていないのでやけどをする危険や、「石灰水」を入れた袋に息を吹き込んでおり、石灰水が口に入る危険がある。（6年P13, P35）
	3 全国 調査	○観察・実験器具の操作方法に関連して、「ふれはば」を「往復の端から端まで」で定義している。これでは、操作上「ふれはば20°、40°」と言いつつ、子どもは「10°、20°」の目盛りに合わせて振らせ始めないといけないため、齟齬がある。また、系統上、物理での「振幅（しんぷく）」は「往復の端から端まで」ではなく「中心から端まで」で定義される。H25年度算数の学テ問題（B問題2）でも、「中心から端まで」を「ふれはば」としている。（5年P145～P147）
	4 外的 要素	○フォントには字形が正しくないものが含まれている。（「返」「運」「導」「過」（＝しんにょう）、「北」「食」「卵」「比」「あ」「め」「ぬ」など） ○ふりこの写真は緑色のバックに赤いおもりが使われており、色覚特性によってはおもりの動きが見えにくい。（5年P140）
	5 構成 配列	○3年「風やゴム」の配当時期が11月であり、風を扱うにはやや寒い時期である。4年「春の生き物」→「ヒトの体」→「気温」という展開になっており、「春」と「気温」を関連付けて学習できない。4年「電気」の前に3単元分の学習があり、梅雨で光電池の実験ができない恐れがある。5年「ものの溶けかた」と6年「水溶液」の配当時期が同じため、理科室の使用が重複する。5年「メダカ」と「ヒト」の配当時期が離れているため、関連付けて学習できない。
	6 資料	○理科と仕事を結びつけるような内容の扱いがなく、キャリア教育の意識が弱い。（3年, 4年） ○北海道や東京都など、写真資料が東日本中心である。 ○めだか稚魚「実際の大きさ」が卵に対して大きい。（5年P41）

理科 2		大日本図書株式会社（4大日本）
特に優れている点	1 大阪市 施策	○【系統】巻末に学習してきたことのまとめとして「ふりかえろう」や、次年度で学習する「○年生になったら」が記載されている。これまでの学習の確認と、次の学年への見通しが意識できる。（6年P185～P188） ○【基礎】問いが「調べよう」などの活動目標ではなく、「～だろうか」という問いになっている。（6年P10, P14, P20） ○【言語】巻頭に「理科の学び方」が記載されている。問題解決を意識して学習を進めることができる。（6年P2）
	2 その他	○「りかのたまてばこ」と称して、子どもが学習中、学習後に興味・関心を持って読むことができるコラムを設けている。学習にかかわる内容なので身の回りを見るときに視野を広げられる。（6年P17, P26等） ○大阪府に関わる資料が12か所あり、大阪府の子どもにとって身近な資料となっている。（6年P128（大阪大学）, P158（堺市）） ○「?」「予想しよう」「計画を立てよう」「実験」「考えよう」「わかったこと」と明記されていて、問題解決の過程を意識できる。 ○4年の栽培教材が「ツルレイシ」になっている。大阪市では長期間実ができ、壁面緑化にも使用できることから、理科だけでなく様々な学習に生かすことができる。
	3 全国 調査	○単元末の「たしかめ」では、知識を問う問いだけでなく、「学んだことを生かそう」と身近な生活の中に学んだ知識を適用する問いが見られる。（6年P27, P35等）
	4 外的 要素	○表紙に学びの対象が記載されているので、内容についての見通しが持てる。
	5 構成 配列	○梅雨の時期に4年「風やゴム」が行われるようになっているので天気によって左右されずに学習が進められる。
	6 資料	○写真が多用されていて、その存在に実感が持てるようになっている。 ○写真は、全景だけでなく、必要な部分を拡大した絵や写真が載せられていて、細かなところまで意識できる。
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市 施策	○【基礎】単元末のまとめがわかりにくく、学習内容の定着に向けた問題が少ない。 ○【防災】「特別警報」については、用語のみ記載されているだけで、説明に関する記載がない。（5年P90） ○【言語】結果をもとに考える場面が少なく、実験観察後の「わかったこと」は簡素化されすぎて、言語活動や表現活動の充実の面では弱い。 ○【系統】系統的な理解のため、関連性のある複数単元の学習をつなげるような工夫がない。
	2 その他	○実験や観察のページに準備物の記載がない。（6年P30～P32） ○5年「もののとけ方」では、毒性の強いホウ酸を使用している。 ○どう線のつなぎ方で、つないだ箇所をビニルテープで巻いていないため、通電するおそれがある。（3年P117） ○歴史上の人物の業績紹介等はあるが、身近な方からのメッセージ等はなく、活用・探究を自分のこととして感じる動機付けには弱い。（5年P17～P18）
	3 全国 調査	○乾電池において、直列つなぎ・並列つなぎの違いしやすい例について、結論が明記されていない。（4年P28） ○単元末の「たしかめよう」では、知識の適用がクローズアップされていて、全国調査にあるような「構想」「分析」「改善」などの枠組みを使った問いが展開されていない。
	4 外的 要素	○「理科の学び方」「作ってみよう」「自由研究」「回しながら読むページ」など、紙面が煩雑な印象を受ける。（4年P142, 6年P88） ○字形の正しくないフォントが使われている。（見出しの太い丸ゴシック体の「あ」「さ」「き」…3年もくじ他、ルビの細い明朝体の「さ」「き」「り」…3年P46, 「ゆ」…3年P85）（4年P72～P73「きん肉」では、タイトル、重要語句の太字、課題文、観察タイトル、読物タイトルのいずれも、字形の正しくない「き」） ○実験や読み物でページをまたいでいる箇所があり、見にくい。（3年P6～7, 4年P92～93） ○キャラクターの存在意義が分からない。
	5 構成 配列	○5年「天気の変化」単元が4月配当で、様々な種類の雲を観察しにくい。 ○5年「植物の実や種子のでき方」単元では、受粉実験の操作が非常に難しいアサガオが主教材で展開されている。
	6 資料	○全体的に子どもの吹き出しが少なく、子どもの言語活動が充実していない。 ○話し合い活動は考え方の例を示し、にているところを話し合う程度で扱いが軽い。

理科 3		学校図書株式会社（11学図）
特に優れている点	1 大阪市 施策	○【基礎】3年生の単元末「まとめてみよう」、4年生以上の単元末「ふりかえってみよう」で知識に関する問題、4年生以上の単元末「活用しよう」で、活用に関する問題が扱われている。器具の使い方等の技能については、該当紙面と巻末に分けて掲載し、次学年以上の巻末にも、適宜説明を再掲している。 ○【言語】科学的用語については、該当紙面の側注、及び単元末に「大事な言葉」として確認の機会が設けられている。 ○【系統】生活科で扱う教材が3・4年の教科書で取り上げられている。また、5年生以上の単元初め「思い出してみよう」で、系統的に理解が深められる。 ○【防災】防災や環境について考えることができるよう、4年生以上で「防災」に関する読み物が掲載されている。
	2 その他	○導入写真をダイナミックに配置し、意欲をもって学習を進められる。（4年P90～P91, 6年P116～P117） ○観察・実験では、側注に観点や確認の機会が設けられている。（3年P71, 5年P70）
	3 全国 調査	○乾電池のつなぎ方と働きの理解が深まるよう、直列つなぎと並列つなぎに焦点を当て、回路を流れる電流の強さを調べる実験を行っている。（4年P41） ○2つの折れ線グラフを1つにまとめたものの紹介や、変化の大きさの比べ方の説明など、結果を整理し考察する際の配慮が見られる。（4年P20）
	4 外的 要素	○写真が鮮明な印刷である。単元末の「読み物」では、写真を多く配置するなど、児童の興味・関心をかき立てるように大きさや位置にも工夫がなされている。（5年P73～P74, 6年P161～P162等） ○長時間の使用に耐え得るように製本が丈夫で、ページを左右いっばいに開くことができるあじろ綴りの製本形式が採用されている。
	5 構成 配列	○多様な雲が見られ、月の観察に適している秋に、「雲と天気」「月と太陽」の単元が行われる。 ○補充活動として扱える「やってみよう」や「作ってみよう」を設けるなど、学習展開に柔軟性がある。（5年P116, 5年P93） ○3年の「活用 学びを生かそう」では、さまざまな種類のおもちゃを紹介しており、学習展開に柔軟性がある。（3年P102～P103, P114～P115）
	6 資料	○「科学者の伝記を読もう」において、学習内容に応じて適切、かつ詳しく紹介されている。 ○「はってん」では児童の興味・関心に応じて利用できるようになっていて、理解を広げられる。（6年P122～P123）
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市 施策	○【基礎】多くの観察・実験活動の予想・計画場面で「予想」や「話し合い」を設けているが、「予想」と「話し合い」とマークの違いが明確ではない。 ○【自主学习】家庭での自主学习を促す配慮は、特に見られない。
	2 その他	○観察・実験と同じ見開き内に、結果・考察が示されている紙面がある。（4年P108） ○グラフの書き方などが単元内の初出箇所のみに掲載されているため、再度参照する際には探しにくい。（4年P18） ○理科室の使い方や、実験器具の使い方が巻末に集められているため、実験中であっても、巻末のページを探索なくてはならない（5年P67） ○「二重ビーカー」を作って実験しているが、ビーカーの中にビーカーを落とすような作業のため、ビーカーを割る（傷つける）可能性がある。（4年P107） ○水の温まり方の実験で、金網ではなく三角架を使っているが、小学生には不安定で危険である。また、ビーカーを直火加熱している。（4年P145） ○川の水を調べるときに、実際に川に入るのは非常に危険である。また、掲載されている写真の児童は、救命胴衣を付けていない。（5年P96）
	3 全国 調査	○実験用ガスコンロが初出となるが、「実験用ガスコンロの使い方」が示されていない。（4年P102） ○電子てんびんに容器や食塩を載せている写真があるが、電子てんびんの端に物を置くと、正確に重さを測定できない可能性がある。（5年P139）
	4 外的 要素	○資料枠などで、写真の枠のサイズが小さく文章量も多いため、文字が小さく詰まっており、子どもの興味・関心を喚起しにくい。 ○本来左側の側注欄にくるはずの「予想」「結果」などの項目名が、見開きの右頁では右側にきていたり、本来右側の側注欄にくるはずの観察・実験の配慮点（+αの内容）が、見開きの左頁では左側にきていたりして、統一性がなく、個に応じた指導への配慮に欠ける。（5年P28～P29）
	5 構成 配列	○4年での栽培の主教材（ヘチマ）が5年と重複している。ヘチマの栽培には棚付の広いスペースが必要である。 ○3年「チョウ」が6～7月配当（アオムシコマユバチが寄生しやすい時期）、4年「秋」が9～10月配当（残暑の時期）、5年「ふりこ」が4月配当（生物の観察に適した時期）など、寒冷地向けの単元構成、順序になっている。 ○3年の1学期にB区分が連続している。梅雨にB区分の観察は困難である。 ○4年「水のすがた」「ゆくえ」が10～11月配当になっているが、凍結や結露の見られる2～3月配当の方が適切である。3月に春先の単元がない。 ○教科書紙面とノートとの一体化を図っており、ノート指導には柔軟性に欠ける。
	6 資料	○学習内容と実社会や実生活との関連を示すコーナーでは、単元内の「読み物」コーナーにあるだけである。「読み物」では、実際に仕事に従事されている方たちへのインタビューは3名だけであり、仕事、キャリア教育につながる記述が不足している。 ○全学年において科学的内容を取り扱った「資料」「読み物」の話題として、ここ最近の理科的話題や資料などはほぼ扱われておらず、以前の教科書から流用している場面が多々見られる。 ○資料写真の地域が東日本の特定の県に偏り、大阪市の資料は1点のみであるため、子どもたちは親しみをもちにくい。

理科 4		教育出版株式会社（17教出）
特に優れている点	1 大阪市 施策	○【基礎】単元末に「たしかめ」のページを設け、基礎的・基本的な知識を振り返り、定着できるようにしている。また、問題数は少ないが「学んだことを使おう」という活用する力の育成を目的とした問題が入れられている。 ○【基礎】科学的な言葉など児童に身に付けさせたい事項は、文章中では太字にし、強調している。また、学年末で「この1年間で学んだこと」という振り返る機会が再度設けられている。 ○【系統】単元の最初のページに「学習のつながり」という欄を掲載し、学習内容のつながりや6年間の系統性が意識できる。
	2 その他	○全単元ではないが、観察実験に「くふう」を掲載し、観察実験が充実している。 ○器具の使い方など、技能について該当紙面に説明が掲載されている。
	3 全国 調査	○4年の「電気のはたらき」では、直列と並列の乾電池のつなぎ方や実験方法、結果を半ページ～1ページを使用し、実際の大きな写真や、さし絵で理解しやすい。 ○天気と気温の調べ方を1ページを使って「折れ線グラフのかき方」と「折れ線グラフの読み取り方」について示している。天気の様子と気温の変化との関係について、結果を整理し考察する力を育成している。（4年P28）
	4 外的 要素	○写真や観察カードが大きく鮮明なものが多く、説明の文章とバランスよく配置されている。 ○文字が大きく、行間が適度に保たれている。
	5 構成 配列	○単元の初めには、「やってみよう」と題して、問題を発見できるよう体験活動の時間が入れられている。 ○3年の、「風やゴムのはたらき」が梅雨の時期に入れられているなど、単元構成に配慮されているものがある。
	6 資料	○B区分で、例えば6学年「土地のつくりと変化」など、学習内容に応じて、資料が多数用意されている。 ○各学年の巻末に「〇〇ミニ図鑑」と称し、発展内容の資料を掲載したり、日本の科学技術に関連する人物から児童に向けたメッセージを掲載したり、学習意欲を喚起しようとしている。
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市 施策	○【防災】自然災害の扱いに被災児童への配慮が見られない。津波にのみ込まれる瞬間の写真を大きく扱い、表記の言葉も「つ波にのみこまれる車やたてもん」陸前高田市の「町が波にのみこまれた」と表記している。（6年P112～P113） ○【防災】災害や死者を出すおそれのある台風を「空からのメッセージ」という言葉で単元名に添えている。（5年P88） ○【防災】特別警報の紹介がない。 ○【言語】観察や実験がないのに、結論が載っている箇所があるため、結果をもとに考えられるようになっていない。（4年P50, P70, 6年P168）
	2 その他	○野外観察時の服装が適切でなく、半ズボン、袖なしのシャツの児童が掲載されている。（3年P83） ○実験用ガスコンロでビーカーを直接加熱している。素手で瓶をコンロの火にかざしている。試験管ばさみの使い方がない。鉄道レールの読み物で「線路に入ってはいけない」の注意がない。（4年P140, P123, P142）
	3 全国 調査	○「電気のはたらき」では、直列と並列の乾電池のつなぎ方や実験方法、結果の説明を大きな実物写真や、さし絵で分かりやすいように配慮しているが、ノートの使用方や結果のまとめ方の扱いが小さい。（4年） ○「天気による気温の変化」で使用されている写真の中で意図が伝わりにくいものがある。また、考察の場面で、自動温度計にもふれた方がよい。（4年）
	4 外的 要素	○学年に応じた漢字の表記に配慮を要する。特に3学年では、4月単元から、予想・葉・調・館など、これから学習する漢字が多く出ており、ふりがなのつけかたにも統一したつけかたが見られない。また、字形が正しくないものがある。（各学年の自由研究の見出し文字「わ」「究」） ○文字が読みにくい箇所がある。（3年P20, P137など写真と重なっている。5年「気象ちょう」6年「つ波」など交ぜ書きがわかりにくい）
	5 構成 配列	○3年の身近な生き物を調べる学習では、いろいろな生き物を対象にして学習していくが、「こん虫を調べよう」という単元名がつけられ対象物を限定している印象を受ける。ほかにも児童の問題意識や学びに沿った内容で学習が展開していくのか配慮が必要なものがある。 ○学習にあまり適していない季節・時期に構成されているものがある。3年「チョウ」6月に配当されているが、アオムシコマユバチに寄生されやすく適切でない。6月「月と太陽」の単元が1月に扱われている。月の観察は秋に行うのがよい。また、5年「雲と天気」も多様な雲が観察できるため秋の方がよい。 ○栽培教材（ヘチマ）が4年と5年が重複している。
	6 資料	○資料写真は、関東・広島・北海道・愛知などが多くみられる。

理科 5		株式会社 新興出版社啓林館（61啓林館）
特に優れている点	1 大阪市 施策	○【言語】別冊「わくわく理科プラス」は、単元毎に「学習のはじめに」と「学習の終わりに」で構成し、学習前の自分の考えや学習後の内容理解、感想について書き込めるようにしているため、論理的思考能力・言語力・記述力を育成できる。 ○【防災】5年「台風」、「川」、6年「大地」の学習に際し、「くらしを守る」という紙面を設けて、「特別警報」などの自分の身を守るための内容や、災害に対する備えを丁寧に扱っている。（5年P60～P63, P115～P116, 6年P140～P143） ○【自主学习】別冊は、家庭での自主学习に対応している。 ○【基礎】単元末に「まとめよう」、「たしかめよう」を設け、単元末の「力だめし」で、日常生活と関連する問題などを数多く扱うなど、活用する力を育成できる。（3年P32, P138） ○【系統】別冊に「思い出してみよう」を設けて、3年生を中心に、1・2年生の生活科で学習した理科につながる既習事項や経験を確認し、新しい学習内容へ広げられるようにしたり、各学年に「学習をつなげよう」を設けて単元間（領域間）の内容のつながりを意識したりできる。
	2 その他	○観察・実験では、「用意するもの」コーナーを設ける、数字や矢印で手順をより丁寧に示す、実験装置をわかりやすい写真やイラストで示す、結果や考察の観点を示すなど、子どもの視点に立って考えを表すことができる。（3年P103, 4年P116～P117, 5年P77, 6年P119） ○「理科の広場」や「力だめし」、「ひろげよう」、「未来へひろがる日本の技術」の中で、実社会・実生活に関連した内容を数多く扱ったり、別冊の「思い出してみよう」で、生活経験を確認する場面を設けたりして、身近な生活経験に沿いながら学習を進めることができる。（4年P79, P120, 5年P168～P169, 6年P157, 3年別冊P22） ○巻頭に「学習の進め方」を設け、問題解決の流れを紹介するとともに、単元内においては、導入から引き出された問題に対し、適宜「予想・計画」の「話し合い」活動を示すなど、見通しをもった観察・実験活動ができる。（4年P74, 6年P42～P43, 別冊P11） ○大阪に関わる資料が豊富である。
	3 全国 調査	○子どものノートや表のまとめで実験結果を整理し、「やってみよう」で補充活動を扱うことで、乾電池のつなぎ方と働きの理解が深まる。（4年P30, P32） ○別冊の「思い出してみよう！」では、前学年の内容を振り返る場面で、理解が定着し、深まる。（4年別冊P8, 5年別冊P36） ○巻末の「算数のまど」で「折れ線グラフのかき方」だけでなく「折れ線グラフの読み取り方」についても示すなどして、天気の様子と気温の変化との関係について、結果を整理し考察する力を育成できる。（4年P18～P24, P182～P183） ○別冊の「考えてみよう！」や「力だめしにチャレンジしよう！」で学習前の考えと学習後の考えを比較すること、また、丁寧な展開で問題を解き、自分の言葉で記述することで、結果を整理し考察する力が育成できる。（5年別冊P5～P7）
	4 外的 要素	○見やすさと読みやすさを配慮したAB判サイズで、長期間の使用に耐え得るように製本され、あじろ綴の製本形式が採用されている。 ○国語科の指導に配慮して正しい字形の学参フォントが採用されており、文字の大きさや行間も適切である。また、印刷は鮮明である。 ○イラストや写真は色や質感の再現を重視するなど、鮮明な印刷である。また、単元導入や単元末の「ひろげよう」など、児童の興味・関心をかき立てる場面では、よりダイナミックに写真を配置するなど、大きさや位置も工夫されている。（4年P84～P85, 171, 5年P10～P11）
	5 構成 配列	○発達段階に合わせて、問題解決学習を進めることができるよう考慮し、「比較」「関係付け」「条件制御」「推論」の能力が身につくようにしている。 ○B区分では、系統的な順序性を確保し、季節的な不都合が生じないよう、野外観察や飼育・栽培に適した時期に配当している。A区分では、水溶液の反応時間が短くなるよう気温の高い時期に6年「水溶液」単元を配当するなど、適した時期を考慮し、理科室や器具の使用が学年間で重ならないようにしている。 ○観察・実験において、栽培・実験器具の副教材、他の方法などを、マークをつけて紹介し、補充活動として扱える「やってみよう」を設けるなど、学習展開に柔軟性がある。
	6 資料	○「理科の広場」や「ひろげよう」、「未来へひろがる日本の技術」、「読んでみよう 理科の本」、5、6年「地域資料集」など豊富に用意されている。 ○単元末の「ひろげよう」、「未来へひろがる日本の技術」において、実社会や実生活に関連する内容、日本の科学技術が役立っている内容、関連する人物から児童に向けたメッセージなどを扱うことで、学習意欲を喚起し、将来の夢や目標を育むようにしている。
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市 施策	○【基礎】児童が主体的に問題を設定するためには、指導者の教材の準備や実験観察の場の設定などの指導と計画的な学習が必要になる。 ○【言語】学習過程を示す「結果を記録しよう」や「話し合い」などの記号が小さいため、使用については慣れが必要である。
	2 その他	○「結果」や「考察」などの学習過程を示す各種記号が小さめで慣れが必要である。 ○別冊「わくわく理科プラス」の利用の仕方を工夫して生活面への発展を促す必要がある。
	3 全国 調査	○4年「電気のはたらき」で検流計の使い方が、小さくわかりにくい。
	4 外的 要素	○相当な厚みと重さ、ならびに別冊が教科書に挟まれているため、取り扱いに注意が必要である。 ○フォントの小さいところがある。
	5 構成 配列	○5年「種子の発芽」の学習は、全単元からの関連が不明確で、突然実験が始まっている。
	6 資料	○資料の図版の縮尺が記載されていないので、比較しにくいところがある。（3年P30, 5年P32）